

## 高岡小学校

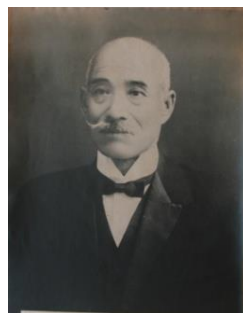


### 概要

明治9年(1876)大和田学校として、現在の高岡駐在所付近の民家を借りて創立。最初の先生は、私塾を引継ぐ形で小林道貫先生、宮島成徳先生、久保田仁左衛門先生。

学区は大和田村、高岡村、高村、小浮村、野馬込村、松崎村、小野村、冬父村、中里村、倉水村、青山村。その後、明治24年に現在地に新築移転、明治44年、高岡尋常高等小学校に改称し、国民学校を経て戦後高岡小学校となった。

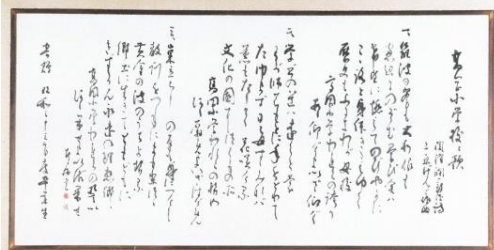
### 学校設立時の校長先生



#### 成毛 萬之助

高岡小学校初代校長。高岡村生まれ。江戸、水戸で学び、明治16年(1883)に神崎小学校訓導、明治19年(1886)に大和田小学校へ異動し、大正12年(1923)まで在職。香取郡西部教育会長を務めるなど地方教育に尽力する。漢詩をたしなみ、漢詩文「高岡八景」を著す。高岡小学校校門傍らに頌徳碑がある。

### 校歌



高岡小学校の校歌は作詞は関澤潤一郎先生、作曲は上原げんと先生で昭和33年(1958)に制定。

関澤先生は牛堀(現潮来市)出身で「水郷の鮎釣詩人」と呼ばれるほどの釣り好きの詩人であった。

作詞家として著名で歌手の伊藤久雄さんが歌いヒットした「高原の旅愁」「高原の慕情」などの作詞者としても知られている。また、潮来市立大生原小学校など近隣の多くの学校の校歌を作詞した。上原先生は、岡晴夫さん、美空ひばりさんなどの楽曲を手がけた。校歌は、第13代校長の木内勝美先生が関澤先生にお願いして作成されたものですが、当時の生徒たちが1円玉貯金をして作成費用を賄ったといわれており、とても思い出深い校歌です。また、高岡小には大正時代に作られた校歌があり、作詞は相川天民さんで、昭和初期まで歌われていたといわれる。

歌詞は、「筑波の山を父母の御影と仰ぐ学び舎の 恵みも深き利根川の清き流れを心とし 徳は桜の花のごと悟りは秋の月のごと 学び励みてひとすじに吾らは正しき道踏まん」というものである。

## 主な展示資料



- ・滑河・小御門・名木・高岡小学校の校旗・校歌・校舎や陸上用ユニホーム・鼓笛隊ユニホーム
- ・滑河・小御門・名木・高岡小学校の学校位置変遷図
- ・滑河・小御門・名木・高岡小学校の歩みと校舎の航空写真
- ・小学校設立時の校長先生、学校行事や授業等の写真、古い学校アルバム
- ・学校日誌・卒業証書(明治時代)・文集・学校印・教科書、鐘、机・椅子、教具類、昔の校舎竣工の棟札・鬼瓦など
- ・地域からの提供資料(名古屋校時代の戸板の落書、寄付台帳など)
- ・各学校の記念誌、閉校記念誌と閉校記念品、卒業制作作品
- ・閉講式のビデオ上映
- ・歴史民俗資料館所蔵の下総地域の写真パネル

## 平成26年度成田市下総歴史民俗資料館企画展

# 下総4小学校の歩み

—滑河・小御門・名木・高岡小学校—

滑河小学校、小御門小学校、名木小学校、高岡小学校の4校は、いずれも130余年の歴史を刻み、平成26年4月に小中一貫教育校として下総みどり学園に統合されました。

企画展では、各学校の移り変わりを紹介しています。また、長い校史の中で4小学校や資料館等で所蔵してきたさまざまな資料や写真パネルで紹介しています。



平成27年1月14日(水)～3月29日(日)

時間：午前9時～午後4時30分 ※月曜休館

成田市下総歴史民俗資料館

成田市高岡 1500  
電話 0476-96-0080

## 滑河小学校



### 概要

明治8年(1875)西大須賀学校として西大須賀の昌福寺を校舎として開校。最初の先生は医師の青柳忠貞先生、僧職の畠中回麟先生。

学区は、西大須賀村、猿山村、滑川村、高倉村、大菅村。明治12年に西大須賀谷津の新校舎へ移り、明治22年町村制

施行により滑河町が発足して滑河町立西大須賀尋常小学校となり、明治41年に猿山小学校(明治26年独立)と合併して、龍正院(滑河観音)の隣地である現在地に滑河尋常高等小学校として再出発した。太平洋戦争中の国民学校を経て戦後滑河小学校となった。

### 学校設立時・2代目の校長先生



堀井 国彦(左) 初代西大須賀小学校及び滑河小学校長。

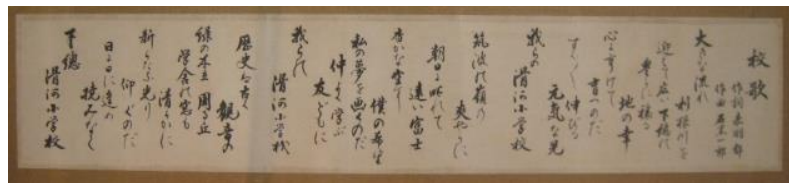


桜井 寿太郎(中) 明治26年猿山小学校開校に伴い初代猿山小学校長となり明治37年まで在籍。



日色 長五郎(右) 第2代(大正2年~8年)滑河小校長。慶応元年(1865)大寺村生まれ。質実剛健を旨とする教育理念をもち剣道を奨励。生徒の服装など定め礼節を重視した。当時剣道の第一人者と言われた有信館の中山博道を招き、剣道大会を実施。また、学校教育だけでなく夏期学校や夜間学校の開設など滑河町の生涯教育にも尽力した。

### 校歌



滑河小学校の校歌は、第16代校長の赤羽郁先生の作詞、作曲は千葉大学の石黒一郎先生です。昭和40年(1965)に制定。赤羽先生は歌人として知られ、『赤羽郁全歌集』を出版している。また、30余りの学校の校歌を作詞されている。近隣では、東大戸小学校、津富浦小学校の校歌も赤羽先生の作詞です。石黒先生は千葉大学稲毛寮歌や館山市北条小校歌なども作曲している。

## 小御門小学校



### 概要

明治9年(1876)名古屋学校として、名古屋の乗願寺の本堂を仮舎として開校。最初の先生は、僧職の松山歎歳先生、家塾教師の大竹市良左衛門先生。

学区は名古屋村、成井村、七沢村。明治16年に新校舎を抱松に建て名古屋尋常小学校となった。明治22年の町村

制施行により小御門村に統合された。その後高倉区も学区に加わり、明治29年に小御門高等小学校を現在地に創立するが、明治42年に高等小学校は閉校となる。同年、名古屋小学校は小御門尋常小学校と改称し、抱松校舎から現在地に移転した。太平洋戦争中の国民学校を経て戦後小御門小学校となった。

### 学校設立時の校長先生

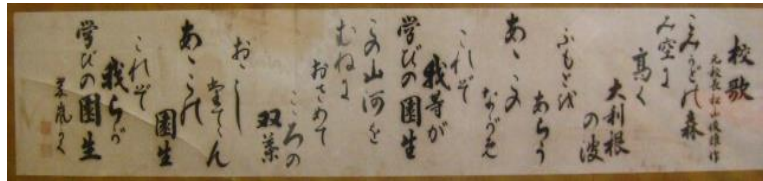


松山 歎覚(左) 歎覚は、葛飾郡布佐村生まれ。万延元年(1860)



来迎寺住職、慶応元年(1865)に名古屋へ移り家塾を開く。明治7年土浦師範学校で教員資格を得て名古屋校開校に備えたが、事故で叶わなかった。そして弟の歎歳が明治17年、初代名古屋小学校訓導となり明治36年頃まで在職した。

### 校歌



小御門小学校の校歌は、松山歎覚の次男である松山俊雄先生(第8代校長で、第13代小御門小学校長の松山武雄先生は長男)の作詞、作曲は東京音楽学校の小出浩平先生です。大正10年(1921)に制定。先生は歌人としても知られ、小御門小学校にある頌徳碑にも詠歌が刻まれている。小出先生は、日本音楽協会会長なども務めた。

東京文京区にある顕彰記念碑によれば、全国900余の校歌作曲を手掛けたとされている。

## 名木小学校



### 概要

滑河・小御門・高岡3校に少し遅れ、明治15年(1882)6月に青山の東光寺において大和田小学校の青山分校として開校。最初の先生は猿山の椿二郎先生。

学区は、名木村、中里村、青山村、倉水村、冬父村。明治17年、大和田校より独立して名木新町台に新校舎を建築、明治19年名木尋常小学校と改称し

た。しかし明治42年に郡長の指定で小御門小の分教場となり、太平洋戦争中の国民学校時代は小御門村立国民学校名木分教場、戦後は小御門村立小御門小学校名木分教場、昭和30年になって再び独立し、下総町立名木小学校として再出発し、昭和57年に校舎を現在地に整備し移転した。

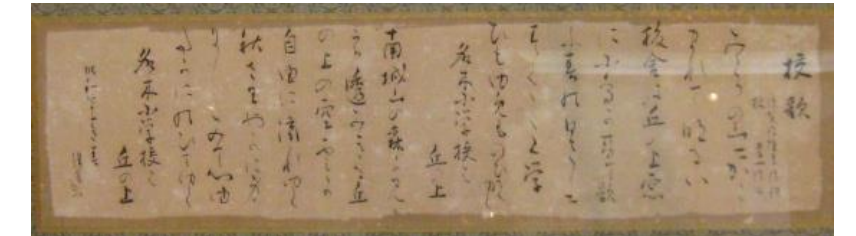
### 学校設立時の校長先生

椿 二郎



名木小学校初代校長。神崎町小松生まれ。明治15年(1882)名木小学校統督。明治16年名木小訓導となり、明治35年校長。大正5年退職。猿山の居宅から名木新町台の校舎まで毎日通い続け、在職35年。お酒がたいへん好きであったことが旧名木小跡地にある頌徳碑に記されている。

### 校歌



名木小学校の校歌は、昭和40年(1965)、独立10周年記念事業で校旗とともに作成された。作詞は当時のPTA会長・須賀澤平さん、作曲は林孝一先生です。

当初、赤羽郁先生に依頼したものの叶わず、当時の青柳不二夫校長先生は予算も少ない中で、校歌の作成に大変苦勞した。『南城』独立20周年記念特集号には、当時の後援会長堀越孝勇さんが思い出話を記している。

※本企画展にあたっては、磯辺大暢氏、飯嶋治通氏、神尾武則氏、島田七夫氏、内藤勲氏、中島誠二氏、吉江浄善氏より貴重な資料の提供・ご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。